戦争行かせない

国民の声 集い、広げる

国会前 行動

14日、国会正門前では、昼前から戦争法案に反対する市民が続々と座り込み、採決強行を絶対許さないと声を上げました。

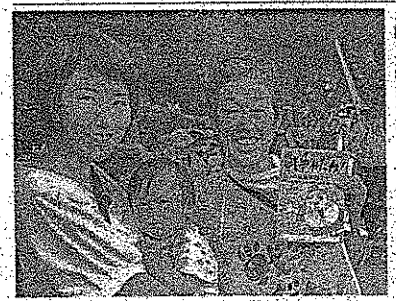
東京都昭島市の唐橋弥生さん（68）は「法案が通れば、近くの米軍横田基地の強化につながるかもしれない。安倍首相が法案の成立をあきらめるまで、私たちは廃案を絶対にあきらめません」。

神奈川県相模原市のベチさん＝大学3年＝は、13日に東京都八王子市で受けとったビラを見て、初めての参加。「ドキドキしています。私はもちろん戦争はいやです。それに、『反対』といえない子どもたちが戦争にいかされるのも許せません。私たちのアピールしている姿をみて、声を上げたり、行動する人が一人でも増えればと思い、ここにきました」と話しました。

友達を誘い合ってきた大学2年の男性（20）＝東京都練馬区＝は「日本が70年間戦争しなかったのは世界に通用する『ブランド』。平和は、アメリカと一緒に戦争するのではつぐれないと思う」。別の男子学生（21）＝茨城県つくば市＝も「法案の中身も問題だけど、国会で議論するプロセスを飛ばして、強行採決するのも問題。議席の数だけで法案を通すことが例として確立されてしまうことがあれば、民主主義の危機だ」。

中学校の非常勤講師の女性（49）＝東京都多摩市＝は「憲法違反が明白な法案を強行しようとする安倍政権に、黙っていられず国会前に来ました。平日の昼間、仕事で来られない夫や職場の仲間の分まで声を上げます」と語っていました。

戦争法案の廃案を求めて抗議の座り込みをする人たち＝14日、国会正門前

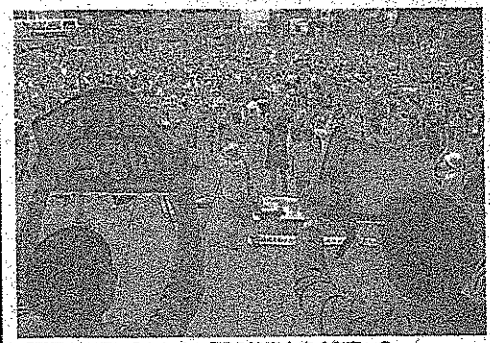

「戦争やだね！」と、東京・中野区から参加した家族＝14日、国会正門前

原子力空母いらない

横須賀 集会に8000人

戦争法案廃案の運動と一体に

殿田・畑野両議員出席


「原子力空母いらない！」「戦争法案今すぐ廃案」のプラカードを掲げる参加者＝13日、神奈川県横須賀市

神奈川県横須賀市で13日、米海軍横須賀基地の原子力空母永久母港化に反対する大集会（実行委員会主催）が開かれ、県内外各地から8000人が集まりました。

米軍は、2008年9月25日、同基地へ原子力空母ジョージ・ワシントンを配備。今年10月2日には交代配備のロナルド・レーガン（原子炉2基）が入港しようとしています。

集会で、小田川義和全労連議長が主催者あいさつし、全国の基地闘争や戦争法案廃案のたたかいとの共同を呼びかけました。

日本共産党の穀田恵二衆院議員・国対委員長、畑野君枝衆院議員、推薦かすゆき（比例）、あさか由香（神奈川選挙区）の両参院候補、井坂新哉県議団長が紹介されました。

穀田氏が情勢報告し「原子力空母母港化の恒久化は、3千万人余が住む首都圏に原発を置くに等しく、許されない」と批判。戦争法案のたたかいは政府を追い詰めているとし「戦争法案廃案への新しいうねりを横須賀からつくろう」と訴えました。

米軍基地がある相模原市の加山俊夫市長と阿部智博市議会議長、大和市の大木哲市長と菊地弘市議会議長、綾瀬市の笠間城治郎市長からのメッセージが紹介され、「原子力空母母港化の是非を問う住民投票を成功させる」共同代表の呉東正彦弁護士、沖縄県統一連の中村司（まもる）代表幹事が連帯あいさつしました。

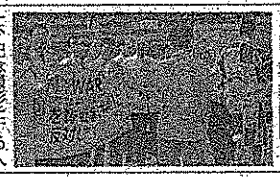
違憲立法は押し出そう

東京・両国国技館前 保団連が白衣宣伝

「違憲立法は士業際に」「戦争法案を押し出そう」と、医師と歯科医師でつくる全国保険医団体連合会（保団連）は13日、大相撲秋場所が始まった東京都墨田区の両国国技館前で法案反対白衣の宣伝をくり広げました。

大相撲の観戦に向かう人や取組を終えた力士、記念撮影をする人でにぎわう国技館前。約100人の医師らが横断幕やプラカードを掲げて、リレートーク。横断幕の輪に加わる力士もいて、注目を集めました。

住江憲勇会長は「地域の第一線で活動する医師として、地域の若者が戦場に駆り出され命を奪い奪われる事態を認めるわけにはいきません」とのべ、法案の廃案を訴えました。


戦争法案反対を訴える保団連の白衣宣伝＝13日、東京都墨田区

戦争反省しない法案

医療関係者ら 廃案求め署名提出

「いのちと暮らしを脅かす安全保障関連法案に反対する医療・介護・福祉関係者の会」は14日、国会を訪れ、安倍首相宛てに署名を提出し、戦争法案廃案を要請しました。

同会呼びかけ人は98人、賛同署名は7855人になりました。外科医で医療制度研究会の本田宏副理事長は、過去最高の薬剤費と社会保障費削減が「医と暮の関係だ」と指摘。千葉県内の花の谷クリニックの伊藤真美院長は、過去の戦争を反省せず歴史を無視した法案だと批判しました。

埼玉県で認知症の人を中心にケアをする「暮らしネット・えん」の小島美里代表理事は「認知症の人が800万人になるというなかでの戦争なんてブラックユーモアだ」と強調。東京・中野区の川島診療所所長の谷川智行医師は「国民の命を守る」といいながら戦争に突き進むことは両立しえない」と訴えました。

日本共産党の小池晃、倉林明子両参院議員が同席しました。

福岡県医療科保険医協会の大橋公司会長（57）は「父は元特攻隊員で出撃前に終戦を迎えました。父母から戦争体験を聞いて育ち、『戦争はとにかくいかん』という信念がある」と話しました。

9/15 赤旗